

(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 2016年度 事業計画書

[公1 ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業]

1. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第4次調査・1年目）

同名の調査研究事業は第1回目(J-HOPE1)を2006年度～2008年度の3カ年に亘って実施され、2009年度～2011年度に第2回目(J-HOPE2)が、さらに2012年度～2015年度に第3回目(J-HOPE3)が実施された。本調査研究は、主研究と付帯研究で構成され世界的に最大規模かつ質の高い研究として国際的にも評価されている。主研究では緩和ケア病棟の質の評価を行い、それを各施設にフィードバックすることにより質の改善を促すというものである。今回の第4次調査(J-HOPE4)では、新しく日本、韓国、台湾を含めたコホート研究も視野に入れられている。初年度である2016年度は、コアメンバー会議を開催し、今後4年間の事業計画を策定し、付帯研究の公募および審査を行う予定である。

2. 『ホスピス・緩和ケア白書 2017』（研究論文集+データブック）作成・刊行事業

『ホスピス緩和ケア白書』として、2016年度版まで下記の13冊を刊行・配布している。引き続き、2017年度版として、子どもたちの緩和ケアに焦点を当て、わが国における小児緩和ケアの現状と活動状況等の特集を計画している。

2004年 ホスピス緩和ケアの取り組みの概況

2005年 ホスピス緩和ケアの質の評価と関連学会研究会の紹介

2006年 緩和ケアにおける教育と人材の育成

2007年 緩和ケアにおける専門性 ～緩和ケアチームと緩和ケア病棟～

2008年 緩和ケアにおける医療提供体制と地域ネットワークの状況

2009年 緩和ケアの普及啓発・境域研修、臨床研究

2010年 緩和ケアにおけるボランティア活動とサポートグループの現状

2011年 がん対策基本法とホスピス緩和ケア

2012年 ホスピス・緩和ケアに関する統計とその解説

2013年 在宅ホスピス・緩和ケアの現状と展望

2014年 緩和ケアにおける専門医教育の現状と課題&学会・学術団体の緩和ケアへの取り組み

2015年 ホスピス・緩和ケアを支える専門家・サポーター

2016年 緩和デイケア・がん患者サロン・デイホスピス

3. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査（3年目）

日本では非がん疾患の終末期での緩和ケアに関する調査が少ない。本研究では、非がん疾患への緩和ケア、専門的緩和ケアの提供などに関する調査を行い、日本における今後の非がん疾患の終末期医療の方向性を考える上で有用なデータを集積する。初年度は、非がん疾患の絞込みなどの研究プロトコルを検討する会議を開催し、対象疾患を限定する調査と、疾患を限定せず医師の専門性などを限定した調査が検討された。2015年度は、緩和ケアアプローチに必要な非がん患者を同定するツールとして、諸外国で開発されたツールの日本語訳及び日本語版を作成し、そのツールを臨床現場で活用した場合のメリット、デメリットを探索し、日本の臨床現場において緩和ケアアプローチが必要な患者を同定することの意義を検討した。2016年度は、上記ツールを用いた調査の研究プロトコルを確定し、調査を開始する予定である。本研究は3～4年間の継続研究を計画している。

4. わが国における小児患者に対する緩和ケアチームの介入についての実態調査

第2期がん対策推進基本計画(2012年)において、小児がんが新たな重点項目となったが、小児専門の緩和ケアチームは、未整備であり緩和ケアを必要としている小児患者に対しては主として成人対象の緩和ケアチームが介入している。また、わが国における小児緩和ケアの実態についても正確なデータは存在していない。本実態調査は、今後の小児緩和ケアの体制整備への示唆を得る目的で、緩和ケアの対象となる子どもたちを診療している施設(小児がん拠点病院、日本小児総合医療施設協議会、がん拠点病院)約400施設を対象に横断的に質問紙による調査を行うものである。

5. 認定・専門看護師による診断・治療開始時期のがん患者と家族へのオリエンテーション・プログラムの開発

「診断時からの緩和ケア」として、全体像を見据えた包括的なアプローチが望まれているが、標準的なプログラムが開発されておらず、看護師個人の技量や能力に依存している状態である。そこで認定・専門看護師の標準的なオリエンテーション・プログラムが開発されることは、今後の相談支援体制や心理社会的支援の充実に大きく貢献できると考えられる。同時に全看護師のオリエンテーションスキルの質の維持、向上に寄与すると考えられる。本研究では、プログラムを開発および妥当性検討ともに、その実施可能性を外来、入院患者を対象として行う予定である。

[公2 ホスピス・緩和ケア人材養成事業]

6. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業(公募)

ホスピス・緩和ケアにおけるボランティアの役割を確認し、そのケアの向上をめざす研修セミナーは2002年以来継続して日本病院ボランティア協会との共催で実施されているが、2015年度より公募事業助成対象となり、本年度も申請がなされ事業委員会において審査され採択された。

- ・テーマ「今あらためて知りたいこと、感じること、ホスピスボランティアの思い・・・病院ボランティアでの活動を知ろう、語ろう、聞こう」
- ・実施予定日と場所：2016年7月 茨城県水戸市又は日立市を予定)
- ・基調講演 講師(予定)：高宮 有介(昭和大学医学部 医学教育推進室)

7. Whole Person Care ワークショップ開催事業

本ワークショップは2012年より開催され、ホスピス・緩和ケアに従事する医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどのメディカルスタッフの育成を目的としたもので、従来の知識提供型ではなくグループワークショップを通じてWhole Person Careの学びを深めるものである。2016年度も引き続き、本ワークショップを大阪で開催予定である。

- ・実施予定日：第9回 2016年8月27日(土)
- ・場 所：千里ライフサイエンスセンター(豊中市)
- ・講 師：恒藤 暁(京都大学大学院医学研究科)
安田裕子(一般社団法人スピリチュアル研究所)
- ・参加費：賛助会員10,000円 非会員15,000円 定員：30名

8. グリーフケア研修セミナー開催事業(公募)

ビリーブメント(死別)とそれに伴うグリーフ(悲嘆)に対する援助は、ホスピス・緩和ケアの領域のみならず、東日本大震災という未曾有の災害により大きな社会的関心事となりつつある。しかしながらビ

リープメント体験についての理解や、死別者への援助手法に関して、我が国での学術的な貢献は、十分とはいえないのが現状である。財団はスピリチュアルケアへの貢献の一環として、此の分野での基礎研究から臨床実践までを含めた学術的交流として「グリーフ&ビリープメント カンファレンスの開催を定期的

- ・実施予定日：2017年1月下旬
- ・場 所：関西学院大学梅田キャンパス

9. 高齢者介護施設等の看取り教育研修

2025年問題、すなわち団塊の世代が大量に死を迎える問題により、病院で看取りを行うのは設備的にも財政的にも困難で、今後は高齢者介護施設での看取りが必要となる。しかし、これらの施設では看取りの経験が少なく、敬遠される傾向にある。このことより、高齢者介護施設を対象にした看取りの教育プログラム開発が必要であり、本財団が担うべきで事業である。2016年度は教育プログラムを開発するためのプロジェクトをスタートさせ、緩和ケア既存プログラムの見直しや、高齢者施設への聞き取り調査を行い、教育プログラムの試作版を作成する予定である。

10. Hutchinson 教授 翻訳出版記念講演会

『Whole Person Care』の日本語版である『新たな全人的ケア：医療と教育のパラダイムシフト』の発刊を記念して、本書の紹介と普及を行う目的で、責任編集者の Hutchinson 教授を招聘し、医療従事者を対象とした Whole Person Care に関する講演会を、大阪と東京で開催する。

- ・実施予定日：大阪 2016年11月26日(土) 13:00~17:00 千里ライフサイエンスセンター
東京 2016年11月27日(日) 13:00~17:00 大手町ファーストスクエア
- ・対 象：医療関係者 200名~250名(逐次通訳付)
- ・参加費：無料(事前申し込み制)

[公3 ホスピス・緩和ケアに関する普及、啓発事業]

11. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業

ホスピス・緩和ケアについての正しい理解を一般の方々へ広く啓発する目的で、財団設立以来継続して実施しており、講演とシンポジウムを軸としたプログラムである。2015年度までに28都市で開催した。2016年度は10月に、岐阜県・各務原市(かがみがはら市)で開催を予定している。

- ・実施予定日：2016年10月1日(土)
- ・場 所：中部学院大学 各務原キャンパス
- ・講 師(予定)：渡辺 正

12. ホスピス財団15周年記念講演会

本年度は、2000年12月の財団発足以来、満15年の節目となり、今まで多くの支援を頂いた方々への感謝と、本財団の更なる発展を願い、記念講演会を実施する。

- ・日 時：2016年7月2日(土) 16時~18時
- ・場 所：新阪急ホテル 紫の間
- ・内 容：記念講演&鼎談 講演講師；志真 泰夫 鼎談；柏木 哲夫、志真 泰夫、恒藤 暁
- ・参加予定者：ホスピス財団賛助会員、関係者および一般の方々(事前申し込み制)

13. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷

『これからのとき』は2006年の出版以来、遺族ケアの働きに用いられている。また、『旅立ちのとき』は昨年8月に発行し、いずれも継続的に追加配布の要望が寄せられており、必要に応じ増刷を行う予定である。

14. 一般広報活動事業

年2回の『ホスピス財団ニュース』の発行を始め、ホームページの充実、更新その他必要に応じて財団のパンフレット改定・刊行などを行う。

15. ともいき京都1周年記念イベント

がんを体験した人、その家族や親しい人達が、日頃の思いや悩みを語り、医療の専門職が一緒に対話する場として「ともいき京都」が昨年スタートした。その1周年を記念して、活動のより広い理解を促すと共に、関係者のネットワークショップ作りを目的とした記念イベントを行う。

- ・実施予定日：2016年7月9日（土）13:30～17:00
- ・場 所：河原町カトリック教会（300名以上収用可能）
- ・参加費：無料
- ・内 容：体験談、カフェ形式の対話、音楽プログラム等

[公4 ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業]

16. International Congress on Palliative Care 関連事業費

カナダ McGill 大学の Balfour Mount 教授が創設し、隔年に開催される緩和ケアに関する国際会議であり、当財団から2名が参加予定である。

17. Ellershaw 教授による講演会&シンポジウム

ホスピス財団設立15周年記念行事の一環として、Liverpool Care Pathwayを開発された英国リバプール大学の Ellershaw 教授を招き、講演会とシンポジウムを開催する。本会は、第40回日本死の臨床研究会年次大会（10月8日～9日；札幌）に合わせて開催し、年次大会においても、同大会と財団の共催で Ellershaw 教授の講演会を2回（10/8午後、10/9午前）開催する。

- ・実施予定日：2016年10月7日（金）13:30～17:30
- ・会 場：札幌コンベンションセンター 中ホール
- ・テーマ：「死にゆく患者のケアをいかに改善させるか」（同時通訳付）
第1部 講演 John Ellershaw（リバプール大学 緩和医療学）
第2部 シンポジウム （座長）恒藤 暁（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）
田村 恵子（京都大学大学院 医学研究科）
シンポジスト John Ellershaw
茅根 義和（東芝病院 緩和ケア科）
杉田 智子（淀川キリスト教病院 がん診療センター）
田村 里子（WITH 医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部）
- ・対 象：医療関係者
- ・参加費：無料
- ・定 員：300名（事前申し込み制：先着順）

18. APHN 関連事業費

当財団はシンガポールに本部を設置する APHN (Asia Pacific Hospice Network) の会員として、当財団設立以来その活動を支援している。2016 年度は 8 月 26 日～27 日、ベトナムにて理事会が開催予定であり、当財団から 2 名が参加予定である。

19. 日本・韓国・台湾 第 2 期共同研究事業 (2 年目)

緩和ケア病棟に入院している患者を対象としたコホート研究 (観察研究) として、終末期がん患者の Dying process の諸症状の変化や治療の効果を明らかにすることを目的として、昨年より研究が開始され会議やメール、スカイプを通じて各分担研究者から必須の調査項目の抽出を依頼した。2016 年度は、韓国、台湾の研究者を招き、合同会議を行い、調査結果に基づいた具体的な研究内容を決定し、研究計画書を作成する。年度の後半には、研究対象とする患者登録を行う予定である。本研究は 3 年間の継続研究を計画している。

以上